文部科学省　教育協力のための拠点システム

派遣現職隊員の教育活動上のニーズ調査報告

「派遣される現職教員への支援と青年海外協力隊の専門性の向上のための事業」

礒田正美(事業代表者)

小原　豊（産学官連携研究員）

宮川　健（産学官連携研究員）

筑波大学教育開発国際協力研究センター

はじめに

平成 15 年度に文部科学省によって構築された，初等中等教育分野における教育協力強化のための「拠点システム」は，日本の協力経験を国内で整備しておくことにより，開発途上国の協力要請に対して，教育協力の質と量，タイミングを的確かつ体系的にすることを狙いとしています。その「拠点システム」の１事業として，筑波大学教育開発国際協力研究センターによって推進されている「派遣される現職教員への支援と青年海外協力隊の専門性の向上のための事業」では，青年海外協力隊等として派遣される現職教員に対して，派遣前訓練などを通してその適格性を培う支援を行なうことや，派遣中にその教育活動上の必要に応じ，現職教員としての日本での教育経験の活かし方や，帰国してからの協力経験の活かし方等について組織的に支援する体制作りを進めています。

ここに報告する「派遣現職隊員の教育活動上のニーズに関する調査」は，派遣現職隊員の支援をより適切に進めるために行なわれました。今後の支援体制作りに際して、非常に重要な基礎資料となるものと考えられます。

今回の報告を，派遣現職隊員による開発途上国の教育開発を推進する手掛かりとして、今後、派遣現職教員支援事業を推進していく所存です。

本調査にご協力下さった在外の派遣現職隊員の皆様、そして調査に際して全面的なご支援とご尽力下さいました国際協力機構（JICA)、特に青年海外協力隊事務局の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

平成１６年3月３１日

文部科学省
教育協力のための拠点システム
派遣現職隊員支援事業代表者
筑波大学教育開発国際協力研究センター
助教授　　礒　田　正　美

目次

はじめに　1

１．派遣現職隊員の教育協力活動上のニーズに関する調査結果の概要　3
２．調査結果
　２－１『 現職派遣協力隊員のプロフィール 』　5
　２－２『現職派遣協力隊員の教育活動上のニーズ調査』　6

注記
　本資料を読みやすく印刷するには，両面刷りで印刷されることをお薦めします。

１．派遣現職隊員の教育協力活動上のニーズに関する調査結果の概要

１．教育協力活動上のニーズに関する調査について

青年海外協力隊隊員は,基本的に青年海外協力隊事務局並びに JICA 現地事務所の所轄の基で,任地の状況に応じて柔軟に活動している。現地環境・生活上の問題は JOCV 現地事務所で扱う事項であり，特に文部科学省としては，現職教員特別参加制度による青年海外協力隊隊員（以下，派遣現職隊員）が，現地で一層容易に教育協力を進めることができるための日本からの後方支援を，派遣現職教員支援事業として推進している。

この後方支援に際して，派遣現職隊員が教育協力活動を進める現状において，どのようなニーズがあるのかを把握する必要がある。そこで，現在４１カ国に派遣されている平成１４年度及び１５年度の派遣現職隊員全員に対して平成１５年１０月に設問紙調査を実施し，隊員の声を直接聞く機会を設けて，現地で切望されている支援の在り方を探った。回答者は８７名（男性４８名，女性３９名）であり，平均年齢は３３.５歳であった。以下，その概要を記し，アンケート結果の詳細については別文書で示す。

２．日本での教職経験の任地での活かし方とその課題

日本での教職経験がどのように任地での業務に活かされているのかに関して，物的リソース，自分自身の能力，人的リソースという３つの観点から概略する。

まず、日本の教職経験の中で物的リソースに関係した事柄については，主に「教材・教具（35%）」「カリキュラム・指導案（21%）」が，任地において活かされている傾向が高いことが認められた（設問 1-1 参照）。また，物的リソースに関わって生じた課題に対して、派遣現職隊員は「現地調達やアレンジ（35%）」「入手経路の開拓（22%）」など，自らの対応し得る範囲で解決を目指しており、約３割の隊員が日本から様々な支援を受けていた(設問 3-1-d 参照)。結果として、全面的または部分的に６割以上の解決をみているものの、解消できなかった課題の存在を３割以上の方が指摘していた(設問 3-1-c 参照)。

次に、自分の能力に関係する事柄については，主に「教科専門性（43%）」「指導力（36%）」が，任地において活かされている傾向が認められた(設問 1-2 参照)。また同事柄に関して生じた課題に対して、派遣現職隊員は主に「自ら学び、工夫する（自助努力 70%）」などの主体的な方法で対処することが確認された(設問 3-2-a 参照)。何らかの支援を受けた隊員は約２割であり、全面的または部分的に解決されたのは４割程という結果が認められた(設問 3-2-c 参照)。

また，同僚，カウンターパートとの共同など人的リソースに関する事柄については，主に「コミュニケーション（31%）」,「受容力（29%）」が，任地において活かされている傾向が認められた(設問 1-3 参照)。またこれらの活かされたものは，同時に，教育活動上の業務を実施しようと工夫する上で焦点ともなっているが，人的リソースに関して生じた課題に対しては、「議論・コミュニケーションする（36%）」という積極的な方法で対処する隊員が多いことが確認された(設問3-3-a 参照)。またこの事柄について、日本から何らかの支援を受けた隊員は１割未満であり、全面的または部分的に解決されたのは２割強という低い結果が認められた(設問 3-3-c, 3-3-d 参照)。

その他，全体的に，任地と日本の教育方法や業務習慣などの相違から，コミュニケーションの欠如，信頼関係の不足，非効率的な業務や，学習意欲の減退などの障害が生じた場合，主に「自ら考えや態度を改める（22%）」,「議論する（22%）」などの対処がとられていた(設問 1-4, 3-4-a, 3-4-b 参照)。語学研修や現地事情など任地への着任時を除き，派遣後の研修機会が容易には実現し難い現実を反映して，派遣後に現地で研修を受けることへの期待は乏しかった。また，日本からの支援については、受けた隊員は１割程度であり、結果として全面的または部分的に解決されたのは２割強という残念な結果も認められた（設問 3-4-c, 3-4-d,参照）。この数値は，協力隊員の立ち向かう課題の克服困難性を表すと同時に，日本からの派遣現職隊員への支援が，組織的になされてきていない現実を反映している。また、派遣現職隊員が受けた支援は「日本の勤務先」から「情報提供やアドバイス」を受けたという内容が共に９割を超えるものであり，現在は，派遣隊員の個人的なつながりが，支援の基盤となっていることが伺われた（設問 3-1-e 参照）。

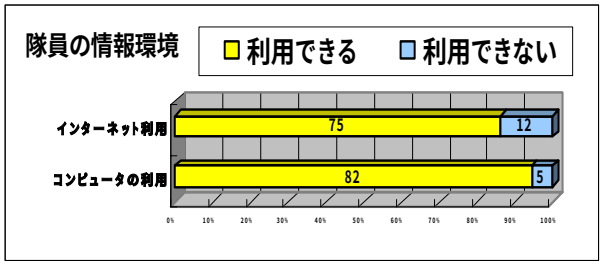
３．日本からの必要な支援策と現職隊員として役立てたい教育経験

派遣現職隊員から日本に支援要請されるものとしては,「現地語で開発された教材・教具（43%）」,「任国の教育システムなどの現地情報（18%）」,「先発隊員の経験・教訓（15%）」,「国内外の専門家の紹介（4%）」などが確認された（設問 4-1 参照）。特に，先発隊員たちの成果や，現地課題への具体的な対応策を共有することを求める声は高かった。また派遣現職隊員が自らのどのよう

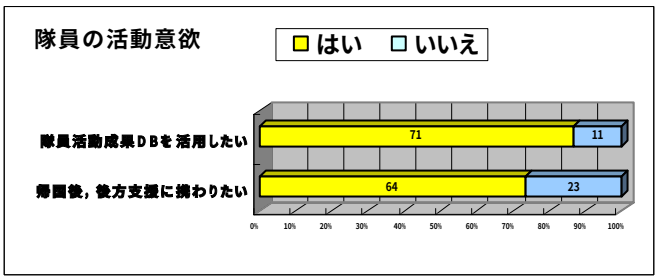
な協力経験をどのようにフィードバックするのかについて尋ねた結果，日本の学校の同僚に対しては「任国での経験や教訓（33%）」，「現地情報（24%）」，「教材・教具（10%）」が，日本の学校の児童・生徒に対しては，「任国での経験や教訓（40%）」，「異文化理解と国際協力（32%）」が高い割合を占めることが確認された（設問 5-3-a，5-3-ｂ参照）。また教育協力政策に対する自らの協力経験の活かし方を考える上で，過半数の隊員が「（国際教育協力に関する）情報の共有化」を指摘していることが確認された（設問 5-3-d 参照）。

また，これらに関わって，以下に示すように，派遣現職隊員の大多数が，インターネット上での公開を前提に設置されたｅアーカイブに自らの協力経験を登録する意欲を持っており，またより多くの関係者と教育経験を共有し，積極的な活用を望んでいる事実が併せて確認されている。

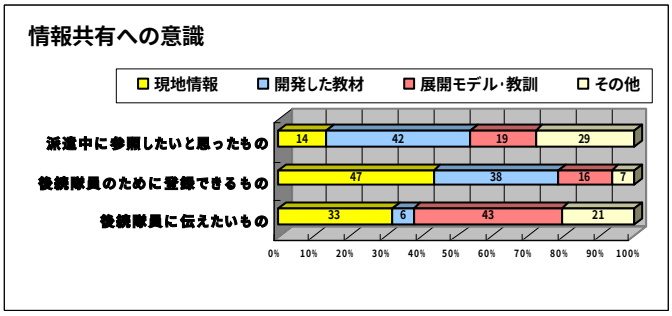
(a) 任国でのインターネット利用環境は，予想外に良好である。[設問Ⅵ,Ⅶ]



(b) 派遣中に隊員はアーカイブ利用を希望し，帰国後には後方支援に意欲を燃やしている。[設問 4-2，ⅩⅢ]



(c) 派遣中には教材を参照したいと考え，後続隊員へは現地情報・教材を公開したいと希望し，その経験に基づく教訓を語りたいと念願している。[設問 5-3]



５．結論

総括的な結論としては，以下の２点が上げられる。

第１に，教育活動上の諸問題は期待されるレベルで解決されておらず，特に現職教員の教育協力活動に焦点を当てた日本からの支援が組織的，体系的には行なわれていないことが明らかになった。派遣現職隊員側も，まずは自分で解決しようと挑む傾向があり，支援を受けることは後回しに考える傾向も読みとれた。ただし，隊員の生の声を聞きたいという方針から回答を記述式にしたこと，設問数が多いことから，後半に無答が増えているので，支援を受けることを後回しにする方の回答がよく反映されていると読むこともできるだろう。

第２に，教育協力に関する情報の共有を求める声は高く，アーカイブを任国から利用できる環境に協力隊員がいることも明らかになった。アーカイブへの情報登録希望も多く，今後の派遣者に対して，アーカイブが主要な情報源の一つとなることがわかった。

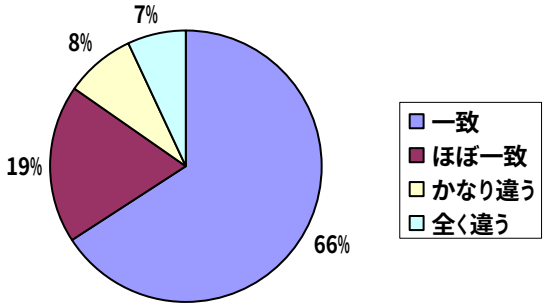
同時に，数量的には少数であるが，隊員個別の声から課題を指摘することができる。第１に，隊員自らの教育経験と任国での業務内容が必ずしも適合しているとは限らない場合があることである。設問紙の結果から，現職派遣教員が自らの経験の活かせない場合が１～２割程度いることが認められる。数量的には少数であり，派遣計画は全体として成功していると言えると考えられるが，適合しない場合には，その隊員にとって事態は深刻であり，そのような場合の支援をどのようにしていくかは，容易には解決し得ない検討課題であるといえる。第２に，若干名の隊員からではあるが，協力隊員は自律的に活動しえるまでに任国で成長することが求められ，支援を必要としないとする考えも認められた。自分の世界を追究したいという自律性の強さが協力隊員に期待されることもまた確かなことである。

何が支援でき，何は支援できないか，ケースに依存するが，まずは，アーカイブによる情報提供や，メーリングリストも含めた支援システム等を通じて，よりよい協力の実際を議論するコミュニティの形成を通じて，これらの課題に取り組む体制作りが必要であろう。

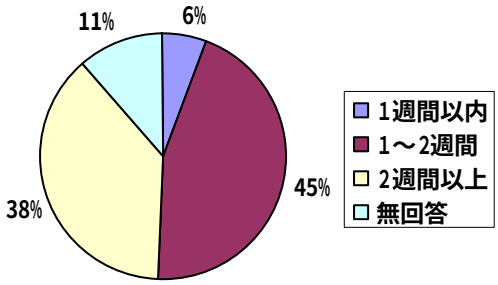
２．調査結果

２－１『 現職派遣協力隊員のプロフィール 』

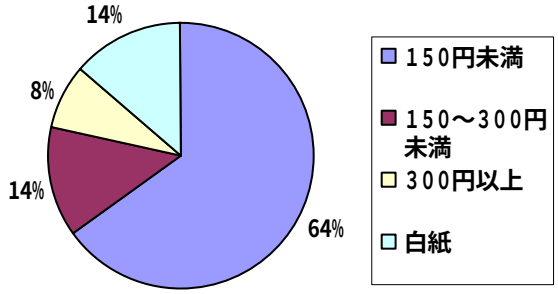
Ⅰ．派遣時に予定された業務と
任地での実際の業務は一致しているか。



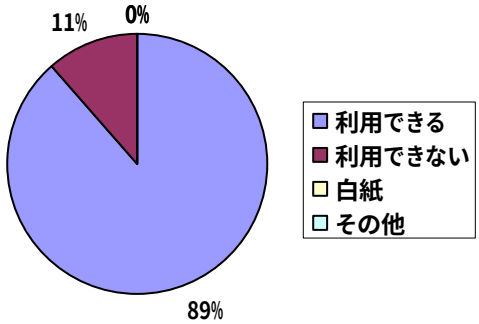
Ⅱ．日本と任地間の手紙にかかる日数



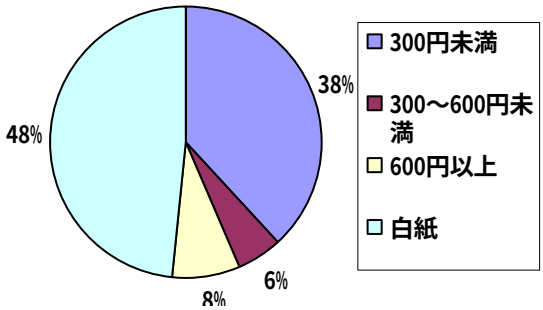
Ⅲ．日本と任地間の手紙にかかる費用



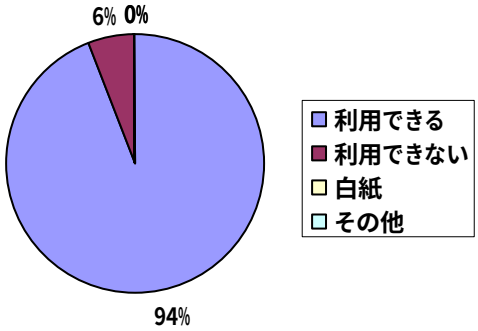
Ⅳ．日本一任地間で電話は利用できるか



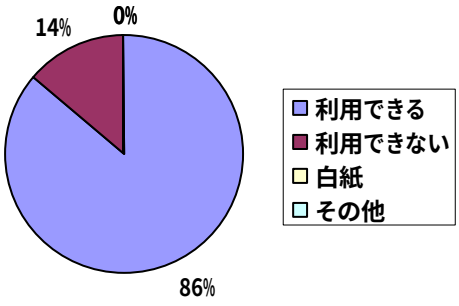
Ⅴ．国際電話の価格



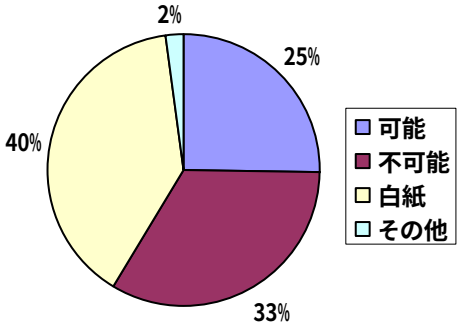
Ⅵ．コンピュータは利用できるか



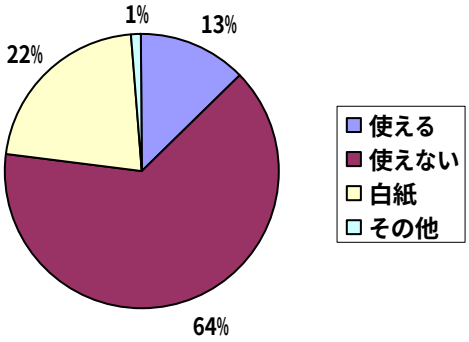
Ⅶ. インターネット接続は可能か



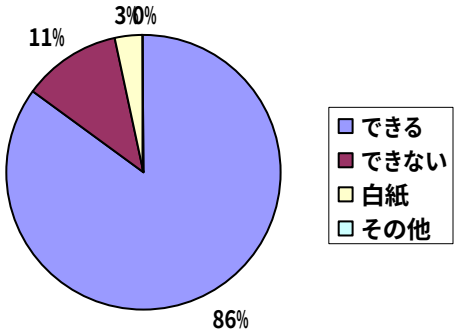
Ⅷ. ローミングサービスはあるか



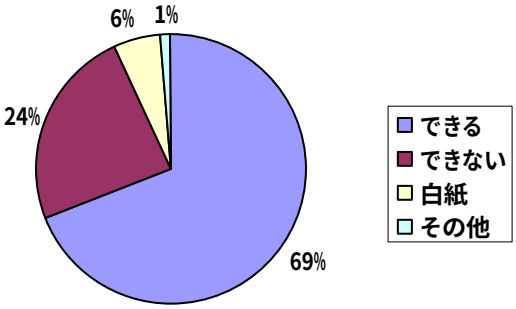
Ⅸ. テレビ会議システムは使えるか



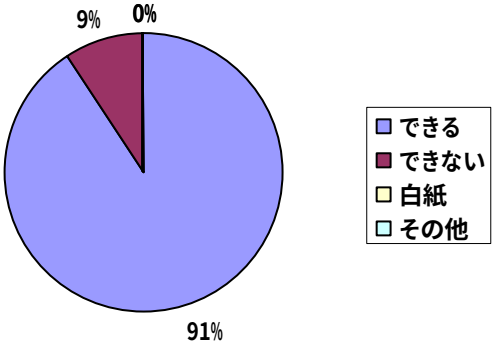
Ⅹ. コンピュータは日本語表示できるか



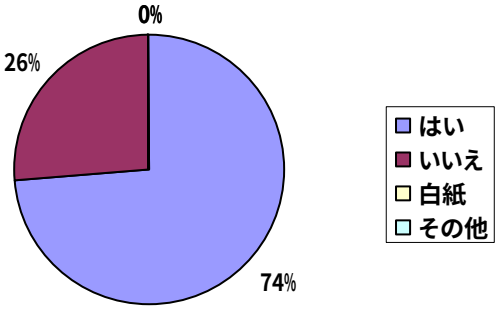
ⅩⅠ. コンピュータは現地語表示できるか



ⅩⅡ. e-mail は利用できるか



ⅩⅢ. 帰国後，後方支援などに携わりたいか

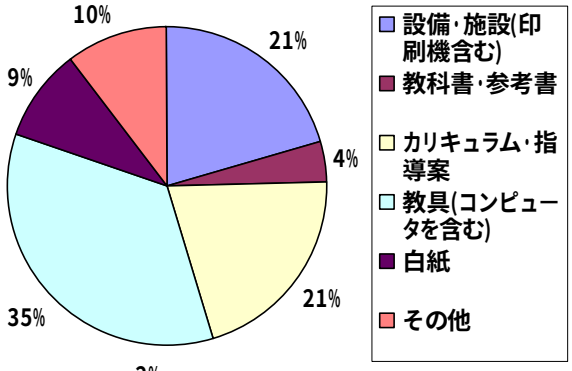


２－２『現職派遣協力隊員の教育活動上のニーズ調査』

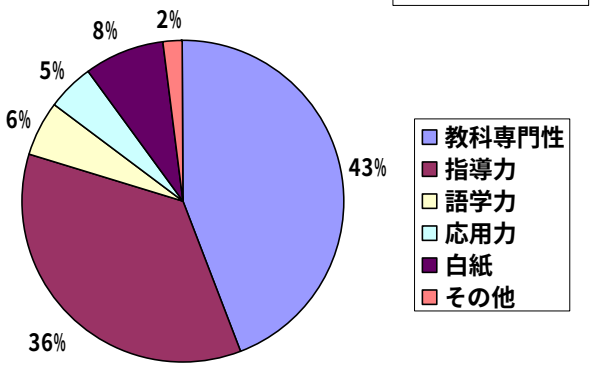
あなたの任地での教育活動に関する業務内容について

質問１．　日本でのご自身の教職経験の何が，どのように任地での業務に活かされていますか。

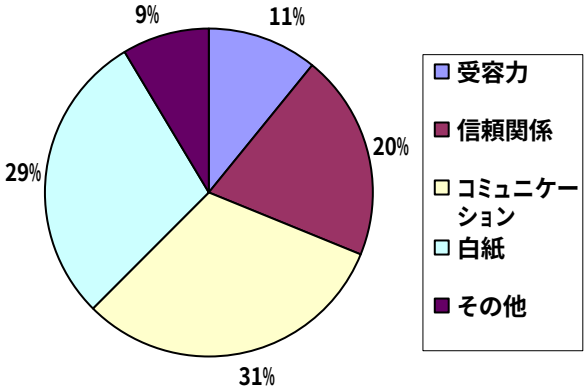
1-1　　教材（教育課程を含む），教室，設備，施設等の物的リソースに関係した事柄
具体的に活かされたものを，
活かされた場面と共にお書き下さい：



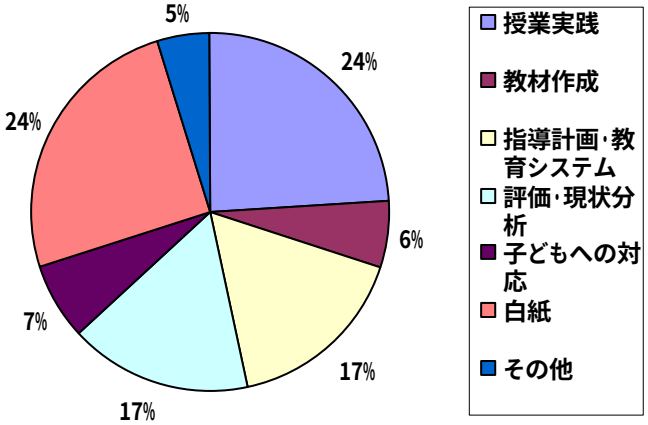
1-2　　自分の専門性，指導力，語学力など，自分の能力に関係する事柄
具体的に活かされた能力を，
活かされた場面と共にお書き下さい：



1-3　同僚・カウンターパートとの共同などの人的リソースに関する事柄
具体的に活かされたものを，
活かされた場面と共にお書き下さい：



1-4.　その他，日本の教育方法や業務方法などに関する事柄
具体的に活かされたものを，
活かされた場面と共にお書き下さい：



質問１に対する回答例

1-1　教材（教育課程を含む），教室，設備，施設などの物的リソースに関係した事柄
「設備・施設」の典型例：大掃除時の色塗りや、教室掲示。
「教科書・参考書」の典型例：日本で使っていた指導書、家庭でできる実験の本、
インターネットでＨＰ「日本ガイシ」の実験コーナー、雑誌「ニュートン」の活用。
「カリキュラム・指導案」の典型例：日本での年間指導計画作成の経験。
「教具」の典型例：フラッシュカードの使用や、カード形式のゲーム。

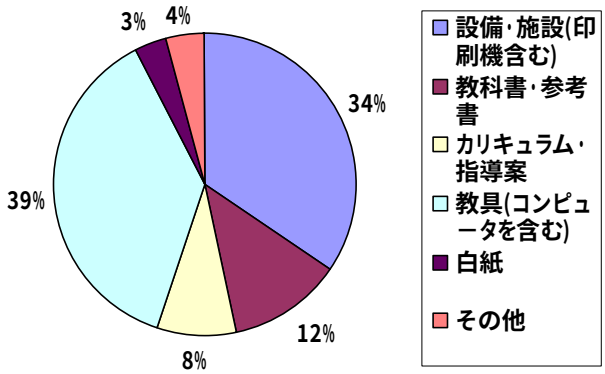
1-2　自分の専門性，指導力，語学力など，自分の能力に関係する事柄
「教科専門性」の典型例：「芸術」での道具（はさみ、のり）の使用。
体育のサーキットトレーニングでの介助など。
「指導力」の典型例：生徒指導（規律・モラル）の実践力、指導方法の種類の多さ、
行き詰まった時の臨機応変の力。
「語学力」の典型例：訓練前に半年間、ＮＯＶＡでスペイン語の学習。
「応用力」の典型例：道具、材料のない中での指導の工夫と、子どもの反応や態度からの子どもの気持の汲み取り。

1-3　同僚・カウンターパートとの共同などの人的リソースに関する事柄
「受容力」の典型例：ＡＥＴの方の立場の理解。
「信頼関係」の典型例：時間や約束をきちんと守るなど日本での習慣。
「コミュニケーション」の典型例：職場、休日など、公私にわたる多くの時間の共有。

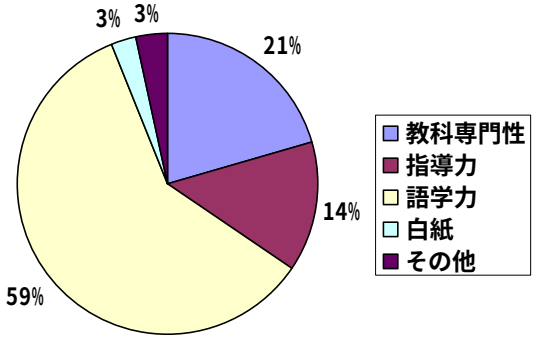
1-4　その他，日本の教育方法や業務方法などに関する事柄
「授業実践」の典型例：基礎・基本の習得方法，子どもの意見の活かし方
「教材作成」の典型例：教科書つくり。日本の教科書が優れていることがよくわかった。
「指導計画・教育システム」の典型例：ネットの情報（ｆａｓｓなど）の検索、時間割の作成（今までなかった。）
「評価・現状分析」の典型例：日本の教育との相違や誤りについて考える。
「子どもへの対応」の典型例：子どもを積極的に褒めること、その褒め方。

質問２．１とは逆の聞き方をします。あなたが教育活動上の業務を実施しようと工夫する際に，どんなことが課題となりましたか。

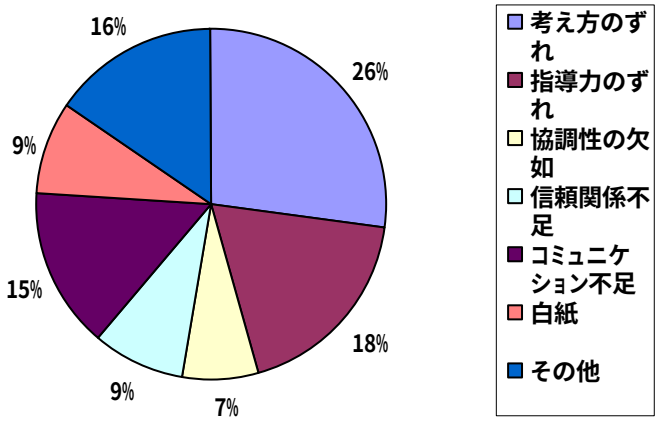
2-1　教材，教室，設備，施設などの物的リソースに関係した事柄
　具体的に課題となったことを課題となった場面と共にお書き下さい：



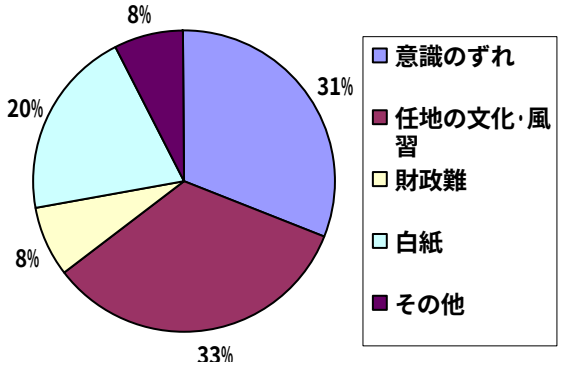
2-2　自分の専門性，指導力，語学力など，自分の能力に関係する事柄
　具体的に課題となった能力を，課題となった場面と共にお書き下さい：

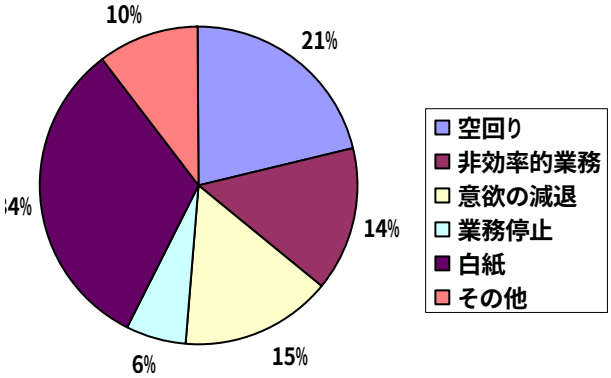


2-3　同僚・カウンターパートの専門性指導力，個性など人的リソースに関係する事柄
　具体的に課題となったことを課題となった場面と共にお書き下さい：



2-4　その他，現地と日本の教育方法や業務習慣などの相違からくる障害や課題
どのような相違から，どのような障害が起こったのか，具体的にお書き下さい：





質問２に対する回答例

2-1　教材，教室，設備，施設などの物的リソースに関係した事柄

「設備・施設」の典型例：印刷機がなく、印刷物はすべてコピー機で行うため、多量のプリント作成が非常に困難。

「カリキュラム・指導案」の典型例：体育の授業では、座学が多く、実践が少なかった。

「教具」の典型例：パソコン指導では、パソコンはあるが、古いのですぐ何か問題が起きる。

2-2　自分の専門性，指導力，語学力など，自分の能力に関係する事柄

「教科専門性」の典型例：理科教師に「数学を教えてほしい」と要請されるなど、理科と数学は同じもの」という認識がある。

「指導力」の典型例：色々と考え方が違うため、指導内容を明確に伝えるのに苦労した。

「語学力」の典型例：学校を巡回し、教師へ気づいた点や指導上の工夫について話す際にうまく表現できない。

2-3　同僚・カウンターパートの専門性，指導力，個性など人的リソースに関係する事柄

「考え方のずれ」の典型例：もっと子ども達一人一人をきちんと見ていくべきだと伝えても理解してもらえない。（笑ってすませられる。）

・算数科では教師自身も理解していないことが多く、間違いが教えられていることもある。自分がその場にいるときには教師に伝えて正してもらっているが、ほとんどの時間は音楽の指導をしているため、それぞれの教師がどのように授業をしているかが把握できない。

「指導力のずれ」の典型例：　教科書を読んでそれを書き取らせているだけである。事実上同僚に技術移転ができない。

「協調性の欠如」の典型例：　自分に関係のないものになればそれでいいという考え方がある。

「信頼関係不足」の典型例：　話し合いや新しい提案をするときには言葉だけでは確実ではないので、必ず書類を作成する。

「コミュニケーション不足」の典型例：教員と過ごす時間が少ないため、コミュニケーションがとりにくい。

2-4　その他，現地と日本の教育方法や業務習慣などの相違からくる障害や課題

＜相違＞の例

「意識のずれ」の典型例：宗教（キリスト教）の影響が強い。

「任地の文化・風習」の典型例：断食月の間、他の公務員の勤務時間は（断食に合わせて）変わる。

「財政難」の典型例：暗い、窓がない、ガラスが割れている、机やいすが古い、もしくはない、黒板が傷だらけ。

＜障害＞の例

「空回り」の典型例：向上心が感じられず、新しいことは面倒くさがってやりたがらない。なかなか根付かない。

「非効率的業務」の典型例：断食を子どもが行うため、ラマダン中の授業が行いにくい。

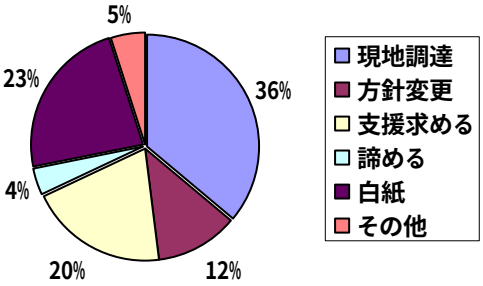
「学習意欲の減退」の典型例：教師は，子供が何もできないと思って，ただ教え込む。

「業務停止」の典型例：教員が自分の作業ができるような場所がない（教員用机がない。）

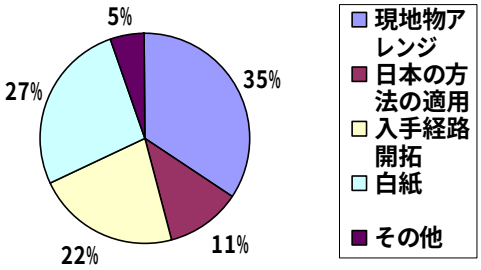
質問３．　前記２で課題となった事柄を，あなたはどのように解決しようとしましたか。

3-1　教材（教育課程を含む），教室，設備，施設など物的リソースに関係した事柄

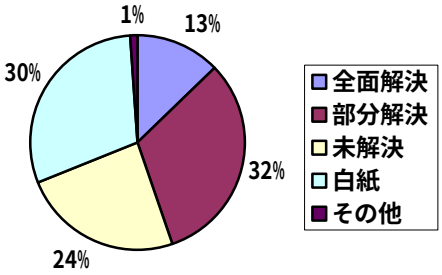
(a) あなたのとった具体的な解決方法：



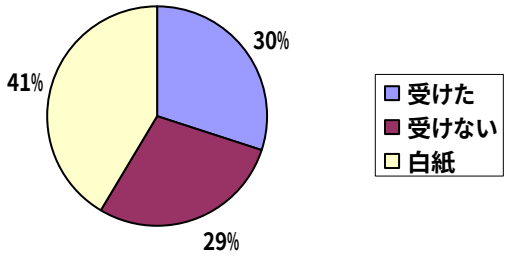
(b) あなたが工夫した事柄：



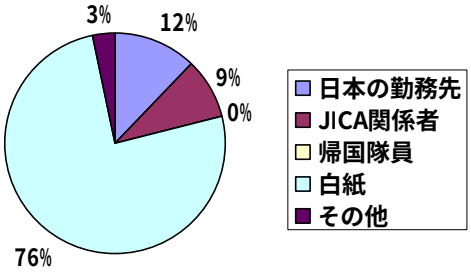
(c) 結果として，どのように解決されたのか，また解決されなかったか：

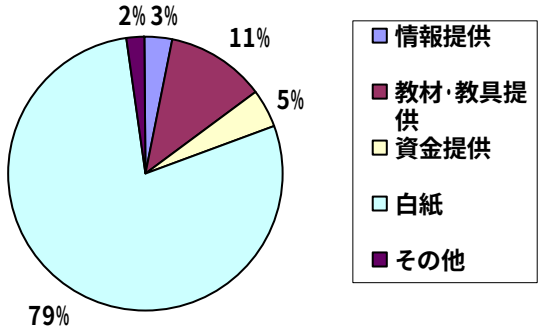


(d) その事柄について，日本（JOCV 他）から支援を受けたか：



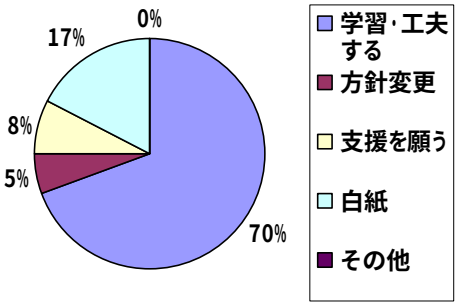
(e) 受けた場合，誰から，どのような支援を受けて，どのように役だったのか：



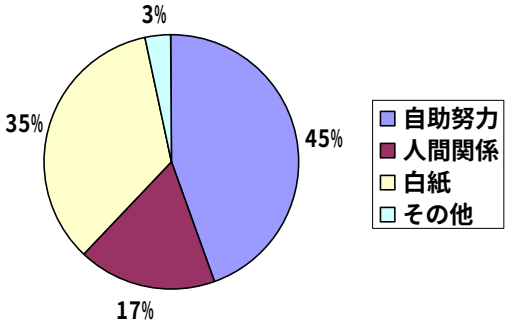


3-2　自分の専門性，指導力，語学力など，自分の能力に関係する事柄
具体的に課題となった能力を，課題となった場面と共にお書き下さい：

(a) あなたのとった具体的な解決方法：



(b) あなたが工夫した事柄：



質問３に対する回答例

3-1 教材（教育課程を含む），教室，設備，施設など物的リソースに関係した事柄

(a) ＜解決方法＞ の例

「現地調達」の典型例：現地にあるもので何とかしようと努力している。日常の学校から車いすや古着、文房具などを寄付してもらう。

「方針変更」の典型例：教科書がなくても子ども達が学べるような教材の作成。

「支援求める」の典型例：日本の友人に依頼して送ってもらう。家族や友人など色々な方にお願いして物を送ってもらった。

「諦める」の典型例：天候が大きく関与しているので解決は困難であった

(b) ＜工夫＞ の例

「現地物アレンジ」の典型例：プラスチックの棒でバトン、ペットボトルでコーン、ラインカーを作った。

「日本の方法の適用」の典型例：寄付するだけでなく、チャリティーバザーを開いて地域交流の場を設けた。集中力に欠け、すぐに物事を投げ出す子が多いため、ほめちぎりながら対応している。

「入手経路の開拓」の典型例：友人に周りにも呼びかけてもらい、多方面から入手した。

(c) ＜結果＞ の例

「部分解決」の典型例：上記の実施によってある程度解決

(d) ＜支援＞ の例

「受けた」の典型例：ラジオ体操のＣＤを送ってもらった。

(e-1) ＜誰から＞の例

「日本の勤務先」の典型例：日本の所属校に勤めている教員からのカンパで楽器を送ってもらった。また、楽器を集めるときには所属校の子ども達や保護者、卒業生にも協力してもらった。（こちらから依頼の手紙を書き、学校に貼ってもらった）

「ＪＩＣＡ関係者」の典型例：東京ＪＩＣＡセンターから送料の支援。日本の勤務校から。

「その他」の典型例：家族に物資をいくらか送ってもらった。

(e-2) ＜支援＞の例

「情報提供」の典型例：ＪＩＣＡのプログラムを利用し、日本の先生に来てもらい、講習会を行った。→教材の幅が広がった。

「教材・教具提供」の典型例：なし

「資金提供」の典型例：東京ＪＩＣＡセンターから送料の支援。日本の勤務校から。日本の所属校に勤めている教員からのカンパで楽器を送ってもらった。また、楽器を集めるとき所属校の子ども達や保護者、卒業生にも協力してもらった。（こちらから依頼の手紙を書き、学校に貼ってもらった）

3-2　自分の専門性，指導力，語学力など，自分の能力に関係する事柄

(a) ＜解決方法＞の例

「学習・工夫する」の典型例：勉強する、家族と仲良く話しをする。言いたいことは事前に作文し、紙に書いてそれを読んでいる。

「方針変更」の典型例：仕事場の同僚、近所の住人とできるだけ会話するように努める。

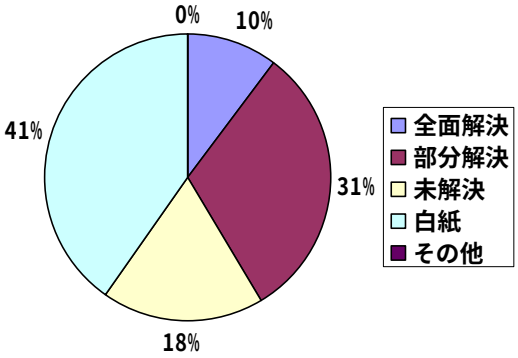
「支援を願う」の典型例：他の体育隊員、日本の教師と連絡をとる。ネットで調べる。

(b) ＜工夫＞の例

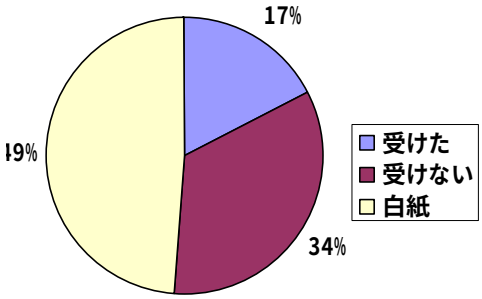
「自助努力」の典型例：工夫というより努力していることは、現地の方に個別レッスンをお願いしている。

「人間関係」の典型例：ティームティーチングを行う。毎日指導案を校長にチェックしてもらい、１週間前には担任に渡し、ヘルプしてもらえる体制をとる。

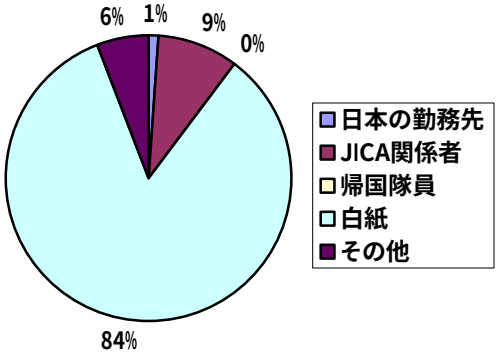
(c) 結果として，どのように解決されたのか，また解決されなかったか：

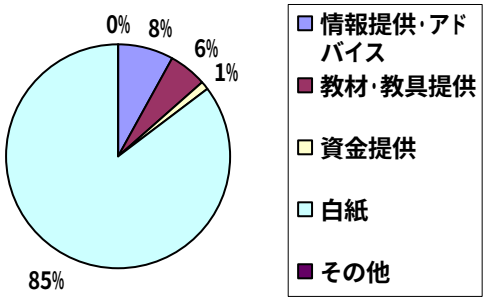


(d) その事柄について，日本（JOCV他）から支援を受けたか：



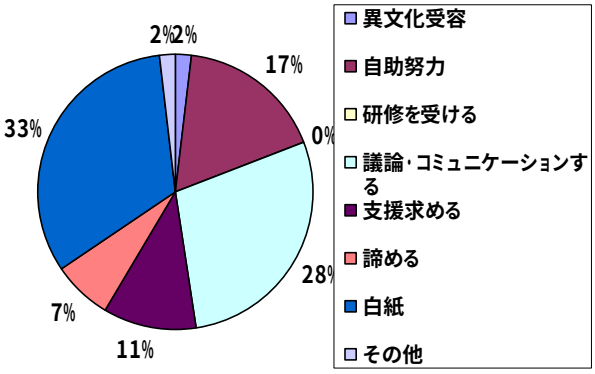
(e) 受けた場合，誰から，どのような支援を受けて，どのように役だったのか：



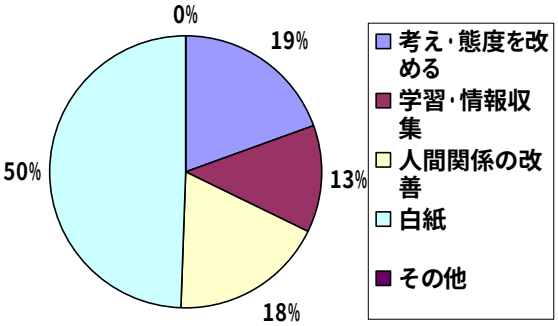


3-3　同僚・カウンターパートの専門性，指導力，個性に関係する事柄

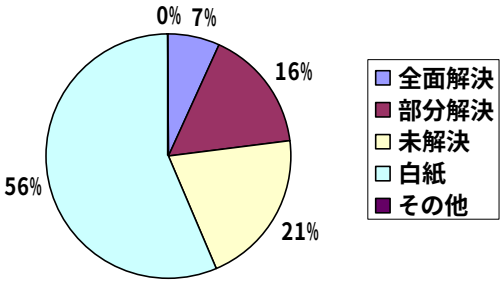
(a) あなたのとった具体的な解決方法：



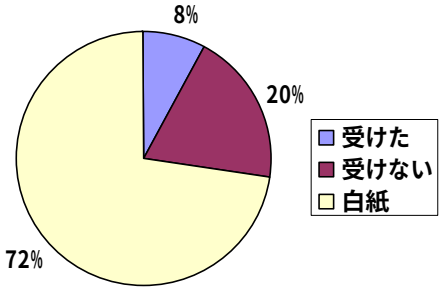
(b) あなたが工夫した事柄：



(c) 結果として，どのように解決されたのか，また解決されなかったか：



(d) その事柄について，日本（JOCV他）から支援を受けたか：



(c) ＜解決＞の例

「全面解決」の典型例：本を送ってもらい、ラオスで授業ができるようになった。

「部分解決」の典型例：少しずつ改善はしているが、依然「伝えたいことが伝わらない」ということはある。十分ではないが、子供達もさほど混乱なく授業に取り組めている様子。

「未解決」の典型例：短期間では解決法を見いだせなかった。（語学力）

(e) ＜支援＞の例

「情報提供・アドバイス」の典型例：任地での教材の手に入れ方を教わった。

「教材・教具提供」の典型例：大学の教授，プロの関係者、資料・資材の援助。

「資金提供」の典型例：日本の勤務先に幾ばくかの寄付を頂いた。

3-3　同僚・カウンターパートの専門性，指導力，個性に関係する事柄

(a) ＜解決方法＞の例

「異文化受容」の典型例：あと５ヶ月くらいあり、喧嘩しても歩みよらなければと思っている。

「自助努力」の典型例：家庭訪問

「研修を受ける」の典型例：なし

「議論・コミュニケーション」の典型例：常にじっくり話す。伝えたい内容を明確にする。どうしても伝えなければならない内容は誰かに助けを求めてでもきちんと伝える。

「支援求める」の典型例：ボランティアの人に相談した。日本の勤務先から学校の様子を写したビデオ等を送ってもらい、それを見せたりした。

「諦める」の典型例：ひたすら耐え、地道に伝える。地方行政に関係しているため直接の関与は難しい。配属先の変更要請は受け入れられなかった。

(b) ＜工夫＞の例

「考え・態度を改める」の典型例：相手が受け入れやすい表現をする。

「学習・情報収集」の典型例：各学年（２学年ごと）の年間カリキュラムを提示した。これから先、自分なりに工夫した授業を見てもらう。模擬授業を見てもらい、学習内容を効果的に与える方法等を同僚達と話す機会を持った。

「人間関係の改善」の典型例：カウンターパートも巻き込むような授業をする。常にコミュニケーションを心がけ、授業参加のあとは必ず授業でよかったところを見つけて誉め、励ますよう努力した。（どんな授業でも）コミュニケーションを深め、信頼関係を築くことから始めようと考えた。

(c) ＜解決＞の例

「全面解決」の典型例：教室経営上、役立てた。基本的な信頼関係は築けた。

「部分解決」の典型例：板書の大切さ、生徒への目的意識の持たせ方等は指導できた。約１年間はうまくいっていた。改善されつつある。

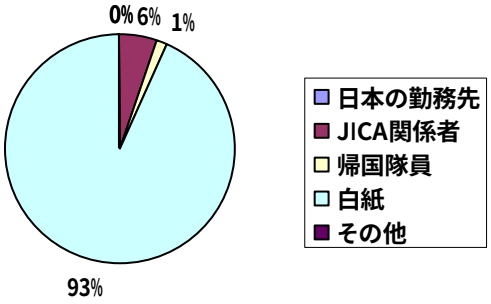
「未解決」の典型例：教頭が教師達に伝えていなかったので、結果的に解決にならなかった。当日私が実施した。

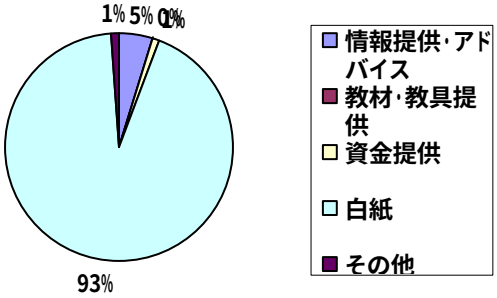
(d) ＜支援＞の例

「受けた」の典型例：ＪＩＣＡのプログラムを利用し、日本から先生方を呼び、講習会を行った。

「受けない」の典型例：特にないがカウンターパートとの関係については現地調査員にも伝え、アドバイスをいただいとこともある。

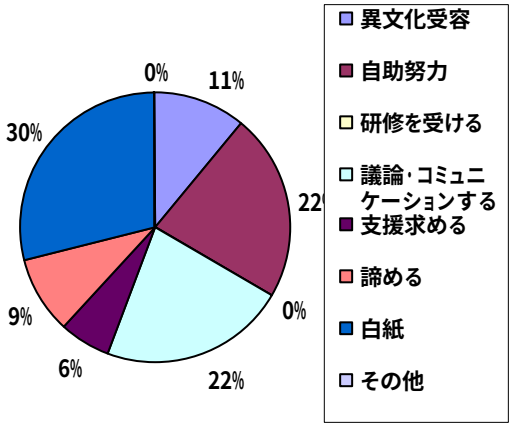
(e) 受けた場合，誰から，どのような支援を受けて，どのように役だったのか：



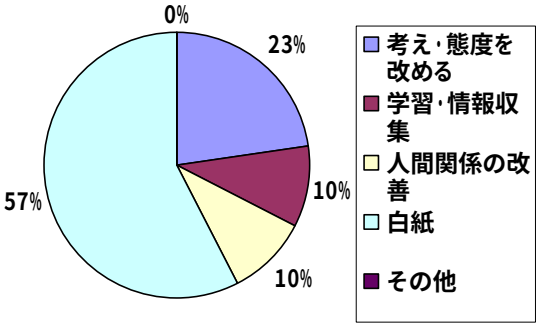


3-4　その他，現地と日本の教育方法や業務習慣などの相違に起源する障害や課題

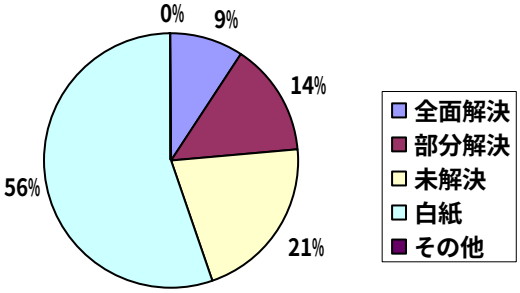
(a) あなたのとった具体的な解決方法：



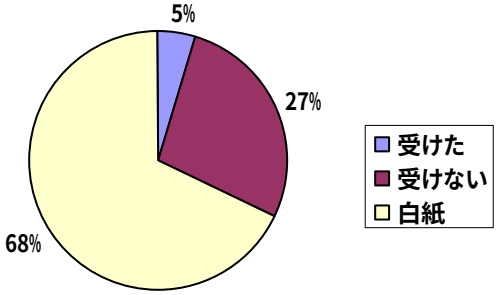
(b) あなたが工夫した事柄：



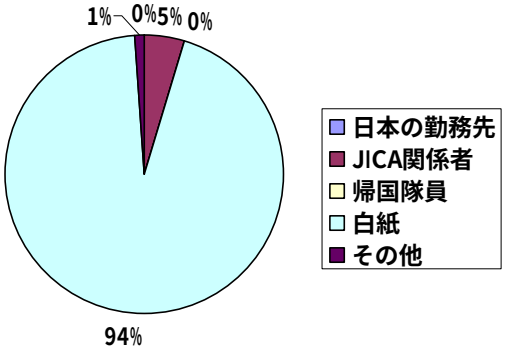
(c) 結果として，どのように解決されたのか，また解決されなかったか：

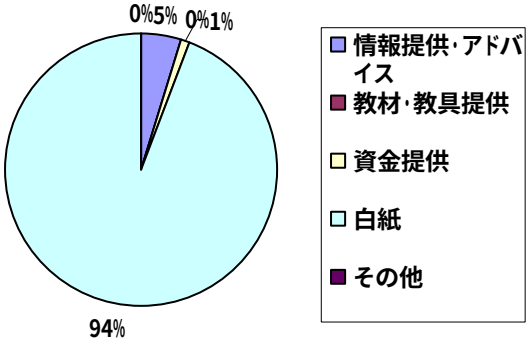


(d) その事柄について，日本（JOCV 他）から支援を受けたか：



(e) 受けた場合，誰から，どのような支援を受けて，どのように役だったのか：





(e) ＜支援＞の例

「ＪＩＣＡ関係者」の典型例：ＪＩＣＡのプログラムを利用し、日本から先生方を呼び、講習会を行った。

「日本の勤務先」の典型例：日本の勤務先に連絡し、相談にのってもらった。

「帰国隊員」の典型例：自分の前任の隊員にメールを打って、対応策を尋ねた。

3-4　その他，現地と日本の教育方法や業務習慣などの相違に起源する障害や課題

(a) ＜解決方法＞の例

「異文化受容」の典型例：ここは日本ではなく、ニジェールなのだから仕方無いと思う。

「自助努力」の典型例：授業開始時間を確認する。授業中の雑談については私がそれを好まないことを態度と言葉で伝える。エアロビのワークショップを通じて教師側自身が楽しめる指導方法を工夫させる。体育や遊びを通して社会的ルールを身につけられるようにと意識して授業している。教材開発。

「議論・コミュニケーションする」の典型例：他の隊員と会議を開き、どうしていけばよいかを話し合った。何が問題だと思うか、ここをどう思うかなど、考えてもらえるように質問してみたりした。

「支援求める」の典型例：業務：ＪＩＣＡの調整員に相談。授業：同行する事務所の職員に頼んで、算数の授業を見せてくれる様に言ってもらった。

「諦める」の典型例：次回の授業の予定について説明する。忍耐、慣れる。

(b) ＜工夫＞の例

「考え・態度を改める」の典型例：計画性を持った授業にしようと常に心がけた。自分自身は時間を守るように行動した。まずはすべてをうけいれるように努めた。

「学習・情報収集」の典型例：現地の習慣や風習についてもっと深く知ろうとなるべく現地の人と一緒に食事をとるようにした。

「人間関係の改善」の典型例：同僚のヘルプがないと活動できないことを一人ずつに話した。

(c) ＜解決＞の例

「全面解決」の典型例：手伝う子供がでてきた。ゴミが減った。

「部分解決」の典型例：まだ十分ではないが、徐々に計画性のある授業が浸透しつつある。また相手側も約束の変更を伝えてくれる人もでてくるようになった。時間割はできたが時間通りに行動はできない。待ったり並んだりが少しずつできるようになってきた。

「未解決」の典型例：結果としてこの学校に受け入れられているとは思うが未解決。今後は少しずつ自分の考えを主張していきたい。

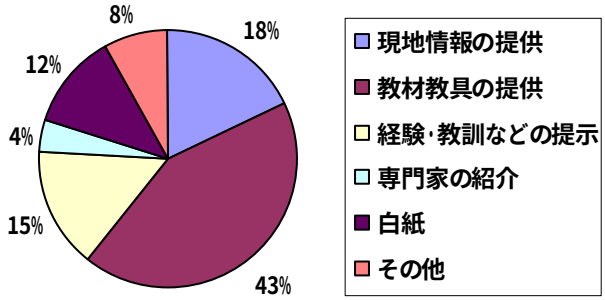
(e) ＜支援＞の例

「情報提供・アドバイス」の典型例：JICA の方に専門家を紹介してもらった。

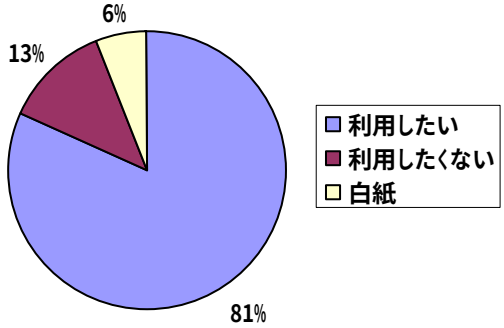
「資金提供」の典型例：日本の有志・知人に理解と援助を求めた。

質問４．必要な支援策について

4-1. 前述の(2)，(3)に対する回答をふまえて，日本からの後方支援として，実際にどのような支援が必要だとお考えですか。

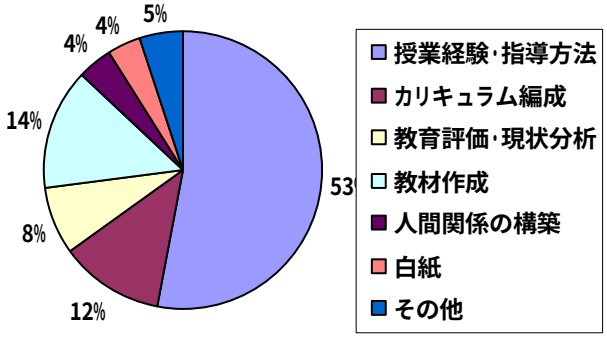


4-2. 教材などを治めた派遣現職教員の活動成果データベースがあれば，活用されますか？

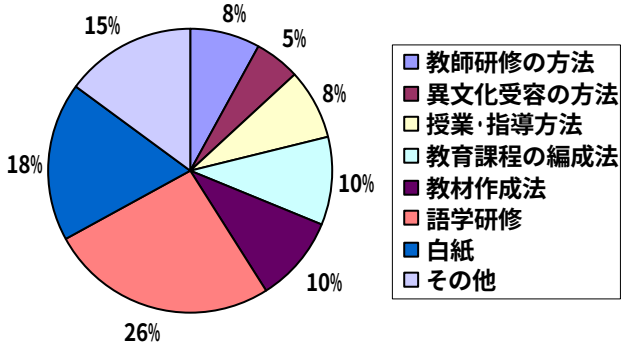


質問５．経験とその活用について

5-1 現職派遣隊員として任地で役立てたい現職経験は何ですか。具体的にお書き下さい。

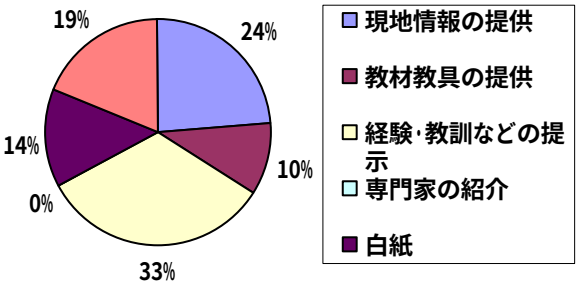


5-2 派遣前訓練ないし技術補完研修として，“派遣現職隊員に必要だ”と考える研修内容を具体的にお書き下さい。

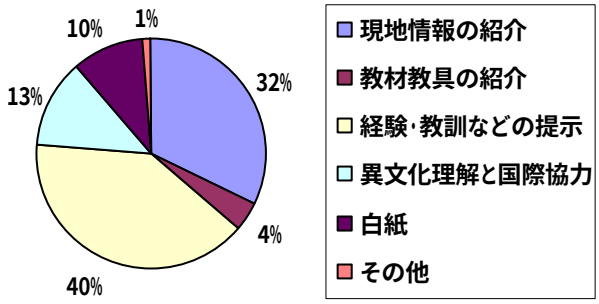


5-3 協力隊員として任地で活躍されて得られた経験の，何を，どのように活かされたいですか。

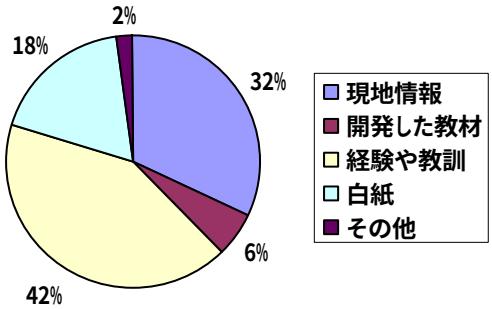
(a) 日本の学校の同僚に対して



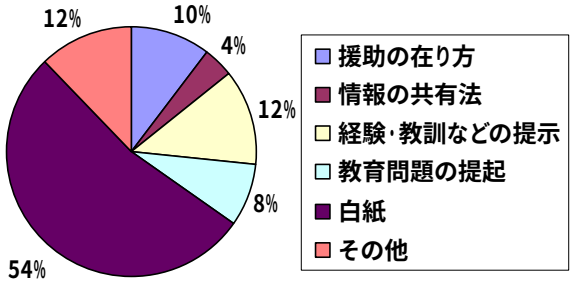
(b) 日本の学校の児童・生徒に対して



(c) 後続隊員に対して



(d) 教育協力政策に対して



質問４に対する回答例

4-1. 日本からの後方支援として，実際に必要と考える支援。

「現地情報の提供」：その国の教育行政や学校のシステムについて事前の学習が必要と考えます。
「教材教具の提供」：様々な教材や活動成果のデータベース、検索システムはありがたいと思う。
「経験･教訓などの提示」：先輩隊員が何に苦労し、どんな教材を作成し、解決策をたてたのか。
「専門家の紹介」：技術顧問の充実（いつでも気軽に相談できる相手が多数いてくれたら心強い。）

質問５に対する回答例

5-1. 現職派遣隊員として任地で役立てたい現職経験

「授業経験･指導法」：子供に対する愛情・実態のとらえ方・接し方など。
「カリキュラム編成」：年間指導計画の立案、授業の組み立て方、教育課程の編成。
「教材作成」：生徒の扱いに慣れていること。「日本では何々はどうか」というような質問にすぐに答えられること。日本の学校とのつながりを任地で活かせたらよい（交流など）。
「人間関係の構築」：職場で，子どもについての共通理解を図れるように学級経営する。

5-2. 派遣現職隊員に必要だと考えられる研修内容

「教師研修の方法」：子どもにだけではなく，任国の教師に専門性など技術移転の方法も大切。
「異文化受容の方法」：環境に慣れて，視野を広げ，教師として信頼関係を気づく方法は必要。
「授業・指導方法」：教師としての確かな指導力，専門性を高めておかなければならない。
「教育課程の編成法」：任国の教育システムや標準的なカリキュラムを知っておきたい。
「教材作成法」：現地の素材を上手く用いて柔軟に教材を作って補うコツがいる。
「語学研修」：現地語で専門用語の言い回しなどをもっと予め押えておきたい。

5-3. 協力隊員として任地で活躍されて得た経験の，何をどのように活かしたいか。

(a) ＜日本の学校の同僚に対して＞
「現地情報の提供」：任国の優れた点や異なった視点によるものの見方。南アフリカという国を知ってもらいたい。
「教材教具の提供」：教材の工夫（物や施設に頼りつつも、クリエイティブな部分を大切にすること。）
「経験･教訓などの提示」：人間としてのオープンマインドを伝えていきたい。

(b)＜日本の学校の児童･生徒に対して＞
「現地情報の紹介」：ニジェールの生徒の勉強に対する姿勢を伝えたい。
「教材教具の紹介」：授業で工夫を施した点は高校でもすぐ使えるものが多くある。
「経験･教訓などの紹介」：外国も日本も考えていることに相違はないこと。

(c) ＜後続隊員に対して＞
「現地情報」：　現地の教師・子どもの考え方
「開発した教材」：手製のアラビア語の専門語集
「経験や教訓」：日本にいるうちにやっておかなければいけないこと。日本の方法の持ち込みと現地の文化や風習との兼ね合いの葛藤。

(d) ＜教育協力政策に対して＞
「援助の在り方」：本当の援助とは何かを考えないといけない。
「情報の共有法」：情報を共有化すること（協力隊参加隊員だけでなく）
「経験･教訓などの提示」：経験そのものが役に立てば活かしていきたい。

調査企画実施　小原　豊・宮川　健
筑波大学教育開発国際協力研究センター産学官連携研究員
分析支援　青山和宏・牧野智彦　　筑波大学大学院教育学研究科
田中真樹子，白川嘉子　筑波大学大学院教育研究科